



米国株 MARKET PICK UP



先週の米国株式市場—冴えない経済指標やドル高懸念の広がりで続落—

	前週終値	3月9日	3月10日	3月11日	3月12日	3月13日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	17,856.78	17,995.72	17,662.94	17,635.39	17,895.22	17,749.31	-107.47	-0.60%
騰落幅		+138.94	-332.78	-27.55	+259.83	-145.91		
S&P500	2,071.26	2,079.43	2,044.16	2,040.24	2,065.95	2,053.40	-17.86	-0.86%
騰落幅		+8.17	-35.27	-3.92	+25.71	-12.55		
ナスダック総合指数	4,927.37	4,942.44	4,859.79	4,849.94	4,893.29	4,871.76	-55.61	-1.13%
騰落幅		+15.07	-82.65	-9.85	+43.35	-21.53		

<先週の概況>

先週の米国株式市場は主要3指数が揃って下落し、ダウ平均とS&P500は3週続落となりました。

小売売上高やミシガン大学消費者信頼感指数といった個人消費関連の経済指標が冴えない内容に終わったことに加え、ドル高がグローバル企業の収益を圧迫するとの懸念が広がりました。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	16.5	3.2	2.4%
S&P500	17.4	2.8	2.1%
ナスダック総合指数	21.1	3.6	1.2%

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2015年3月13日時点)

S&P500と騰落レシオの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

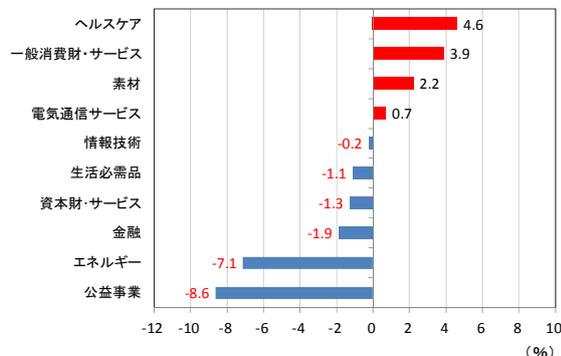
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

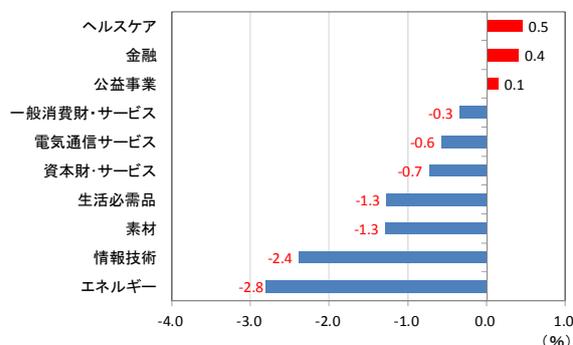
業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング(3/9-3/13)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
DD	イー・アイ・デュポン・ド・カ・ス・ムール	3.0
DIS	ウォルト・ディズニー	2.5
UNH	ユナイテッドヘルス・グループ	2.1
GS	ゴールドマン・サックス・グループ	1.3
VZ	ベライゾン・コミュニケーションズ	1.1
TRV	トラベラーズ・カンパニーズ	0.9
AXP	アメリカン・エクスプレス	0.4
HD	ホーム・デポ	0.3
JPM	JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー	0.2
PFE	ファイザー	0.1

(出所) マネックス証券作成

値下がり率ランキング(3/9-3/13)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
INTC	インテル	-6.8
KO	ザ コカ・コーラカンパニー	-3.9
CSCO	シスコシステムズ	-3.4
IBM	IBM	-2.7
MSFT	マイクロソフト	-2.3
T	AT&T	-2.2
XOM	エクソンモービル	-2.1
CVX	シェブロン	-1.9
V	Visa	-1.6
GE	ゼネラル・エレクトリック	-1.5

(出所) マネックス証券作成

<上昇>

ダウ平均採用の30銘柄中上昇は10銘柄、下落が20銘柄となりました。ウォルト・ディズニー (DIS) は大ヒットした「アナと雪の女王」の続編を制作することを発表、週間で2.5%高となり一時史上最高値を更新しました。ゴールドマン・サックス (GS) やJPモルガン (JPM) は資本計画がFRBに承認されたことが好感され堅調でした。

<下落>

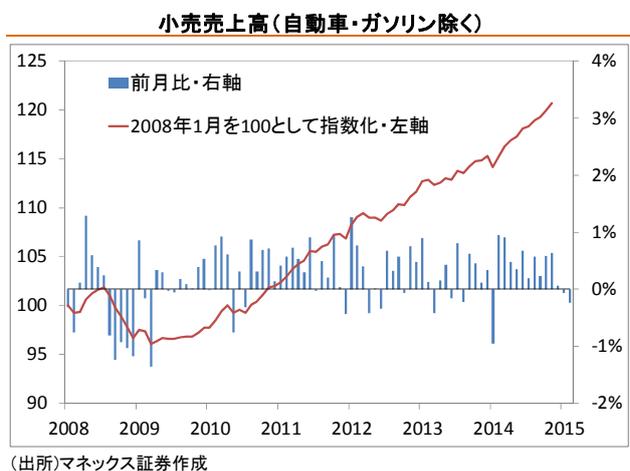
ドル高による収益圧迫懸念からインテル (INTC)、コカ・コーラ (KO)、シスコシステムズ (CSCO)、IBM (IBM) などのグローバル企業の軟調さが目立ちました。

先週発表された主な経済指標

小売売上高（自動車ガソリン除く前月比）2月 -0.2% 市場予想 +0.3% 前月 -0.1%

12日に発表された2月の小売売上高は変動の大きい自動車とガソリンを除いた売上高が、前月比0.2%減と0.3%増の市場予想を大きく下回りました。あわせて1月分は0.2%増から0.1%減に下方修正されています。

前月分の下方修正によって、自動車とガソリンを除いた小売売上高は2ヵ月連続で前月比マイナスとなりました。同売上高が2ヵ月連続でマイナスとなったのは2009年6月・7月以来約5年半振りです。個人消費が弱含んでいるのは気がかりです。



今後発表される主な経済指標

3月18日 米連邦公開市場委員会（FOMC）結果発表



ジャネット・イエレン
FRB 議長

3月17日から18日にかけて米連邦公開市場委員会（FOMC）が開催されます。今回のFOMCで最大の注目ポイントは、金融政策の正常化（＝利上げ）について「忍耐強くいられる」としている現在のメッセージを維持するのか、修正するのかという点です。

イエレンFRB議長は「忍耐強く」という表現を削除したからといってそれが必ずしもその後数回の会合で利上げが行なわれるという意味とはならないと発言しています。ただ、そうは言ってももし文言が削除された場合マーケットは「利上げの早期化」を意識すると考えられます。

足元の米国株式市場は「冴えない経済指標」に加えて「ドル高による企業収益圧迫懸念」を重石として調整しているだけに、利上げの早期化が意識されてさらにドル高が進む展開になると、株価はもう一段の調整を見込んでおく必要がありそうです。

マーケットビュー—FOMCの発表内容次第で大きく異なる展開を予想—

先週のマーケットビューでは、ダウ平均の100日移動平均線がサポートとなるかどうか注目と記しましたが、幸いにもダウ平均は100日移動平均線にタッチしたところでいったん反発したものの、戻りは鈍く1万8000ドルを割り込んだ水準で停滞しています。

先週発表された小売売上高の結果も冴えない内容で、米国の経済指標は雇用を除いて冴えない内容の発表が続いています。以前から記しているように、このようなファンダメンタルズの下で米国株が最高値を更新していくような展開は考えづらいと思われませんが、短期的な反発の鍵はやはり今週発表されるFOMCでしょう。

まず、FOMCで「忍耐強く」という表現が削除された場合、イエレン議長の記者会見の内容にもよりますが、6月の利上げが強く意識され、ドル高・株安といった方向性の継続が考えられます。一方、「忍耐強く」が維持された場合は利上げが7月または9月に後ずれするとの見方が強まり、一定の株価下支え効果が出てくると見込んでいます。

市場では「忍耐強く」が削除されるとの見方がやや優勢のようです。非常に微妙な判断ですが、筆者も6月利上げへの道を残すために、「忍耐強く」が削除されるのではないかと考えています。その場合、ダウ平均は次のサポート目処である200日移動平均のある1万7300ドルといったところまで調整の可能性があるのではないかと考えています。

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではないです。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、
 一般社団法人 日本投資顧問業協会